

事務事業評価表（補助金等）

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（主幹等）	30年3月31日
2次評価日（課長等）	30年3月31日

1 事業名	し尿汲取り業務維持助成事業補助金		事務事業コード	82202
2 担当部課	部等 市民環境部	課等 市民環境課	担当者	吉沢 透
3 事業概要	目的体系	基本目標 自然環境と暮らしが調和した、安全・安心なまち	施策	環境衛生対策の推進
		政策 循環型社会の構築		
		事務事業 し尿汲取り業務維持助成事業補助金		
		予算科目 し尿処理管理	業務委託	全部委託
		実施義務 なし（選択的事業）	国県補助	なし
	根拠法令等	なし		

●事業の内容（D0）

4 補助等の内容		* 補助金、負担金、交付金の具体的な内容	
① 性質	補助金	② 期間	年度 ~ 年度
補助金の種別	その他事業補助	③ 対象	事業者
④ 制度の内容	市内のし尿汲み取り業者組合に対する業務維持の助成。		
⑤ 積算方法	補助率1/2以内で、1,080千円以内。		
⑥ 期待される効果（最終的な意図）	し尿汲み取り世帯、また、浄化槽設置世帯における衛生環境の維持が図られる。		

5 補助等の実績

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 件数（件）				
予算件数	1	1	1	1
実際の支出件数	1	1	1	
執行率	100.0%	100.0%	100.0%	
② 金額（円）				
予算額	1,080,000	1,080,000	1,080,000	1,080,000
財源				
一般財源	1,064,000	1,080,000	1,064,000	1,080,000
内訳				
特定財源	16,000	0	16,000	0
* 特定財源（負担割合）の説明	許可更新手数料4,000円×2×2社		許可更新手数料4,000円×2×2社	
実際の支出金額	1,080,000	1,080,000	1,080,000	
予算執行率	100.0%	100.0%	100.0%	
支出額の前年度比		100.0%	100.0%	

③ 29年度の交付先
岡谷市清掃事業者組合

●事業の評価 (CHECK)

6 妥当性評価		* 妥当性 = 行政がこの事業を行う必要性はあるか。		妥当性 (1次判定)	
評価項目		はい	いいえ		
①	現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1		5 4	
②	補助等の効果は広く市民に還元され、特定団体の既得権益にはなっていない。	1			
③	全ての対象者に交付している。		0		
④	補助等の基準を明確に定め、市民に周知している。	1			
⑤	社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、補助等の内容に反映している。	1			
⑥～⑩は、補助金の対象が特定の団体に限定される場合に回答		妥当性 (2次判定)		高い	
⑥	補助対象団体では構成員に会費負担を求めており、自主財源を確保している。	1		5 9	
⑦	補助対象団体の会計において、市の補助額を上回る繰越額は生じていない。	1			
⑧	補助対象団体の事務局は独立しており、市は事務的な支援を行っていない。	1			
⑨	補助対象団体の事業実績、決算状況を把握している。	1			
⑩	補助対象団体が補助金を目的どおり使用したか、用途を検証している。	1			

7 有効性評価		* 有効性 = 成果指標 (項目7/住民の満足度) が向上しているか。		有効性		高い
評価項目		はい	いいえ			
①	この補助金等が属する施策において、この補助金等の優先度が高い。	1				
②	補助等の目的が未達成で、今後も継続することで成果が向上する余地がある。	1				
③	他の方法と比べて、現金を直接給付する方法が最も効果的で低コストである。	1				
④	補助団体等において、市が補助等を行った目的が達成された。	1				
⑤	この事業の利用者が増加した。	補助・交付件数	前年度比	100.0%	1	

●改善の内容 (ACTION)

8 具体的な課題と改善	
課題	(補助等の制度を有効に活用する上で、現在課題になっていること)
	し尿汲み取り量は年々減少し、経営の安定が難しくなっている。
改善方法	(上記の課題をふまえて31年度以降に実施する、具体的な改善の内容)
	今後もし尿汲み取り業務は必要であるが、業者には経営改善等を図ってもらうとともに、市としても業務継続のための支援策を講じていく。
改善開始時期	平成30年4月

●次年度の計画 (PLAN)

9 次年度の方針	継続して実施
----------	--------